

令和5年度

事業報告書

社会福祉法人清須市社会福祉協議会

令和5年度事業報告

令和5年度は、清須市清洲総合福祉センターの大規模改修工事が実施され、補修工事をはじめ、旧ダイルームを会議室や相談室等に改修する等福祉活動を推進する拠点施設として整備されました。

また、新規事業として清須市から成年後見支援センター事業を受託し、準備期間を経て、令和5年6月からオープンさせました。初年度は、市民への広報啓発が重要であることから、パンフレットの配布、各種団体への出前講座など、アウトリーチでPR活動に努めました。

令和5年度をもって第4次総合計画が期間満了を迎えるため、第5次の発展強化計画(中期経営計画)及び災害対策計画を策定し、新たなスタートの準備を進めることができました。

また、地域福祉活動計画については、清須市の地域福祉計画との一体的策定を開始しました。

地域福祉活動については、ブロック社協による福祉学習会、サロン活動、寿会による福祉出前講座、学校における福祉実践教室などコロナ禍前の水準までに回復し、活発に実施することができました。

企業との協働の取組みとして、ヨシヅヤ清洲店に場所を提供していただき、「みんなの元気塾」を毎月2回開催し、社会参加、サロン活動やボランティア活動のきっかけとなる機会を提供することができました。

災害支援においては、愛知県と初めて共催で災害ボランティアセンターの設置運営訓練を行い、広域における連携や協力のあり方を学習しました。また、清須市総合防災訓練においては、短大生や高校生の参加協力のもと、市、社協、関係機関、市民が一体となった訓練を実施することができました。

能登半島地震においては、被災地への支援活動としての義援金の募集と送金、職員を現地に派遣するなど微力ながら被災地支援に尽力しました。

職員研修においては、今年度から清須市との人事交流制度をスタートさせ、職員の資質向上に努めました。相互にとっていい影響をもたらし、相互の組織理解、職員間の交流及び連携強化の成果がありました。

また、内部研修では、公益通報者保護法及び個人情報保護法の理解、虐待防止研修の実施などコンプライアンスやカバナンスの強化に取り組みました。あわせて、ワークライフバランスを充実させるため、有給休暇の取得率を上げる目的で、有給休暇を計画的に付与する制度を構築するなど働き方の改善にも取り組むことができました。

＜清須市社会福祉協議会 第4次総合計画体系図＞

理念	種別	方向性	目標
私たち一人ひとりが自分らしく安心して暮らせる福祉のまちづくり	地域福祉活動計画	市民と社協が共に目指す 支え合いのある地域づくり	①身近な地域での支え合い活動を推進します!! ②誰もが活躍できる清須市を目指します!! ③誰もが認め合い、共に生きる力を育てます!! ④何でも気軽に相談できる社協を目指します!! ⑤権利擁護体制を強化し、将来も安心して暮らせるまちをつくります!!
	発展強化計画	社協が果たす 公益的な役割の整理と、 持続可能な法人基盤の整備	①役職員の共通理解の促進と職員育成の強化を進めます!! ②多様なニーズに対応できるよう社協独自事業を拡充します!! ③市民と社協が気軽に情報をやりとりできるしくみをつくります!! ④継続した事業運営のための財源の確保に努めます!! ⑤市民の信頼と安心を得られる確かな法人基盤を構築します!! ⑥安心してサービス利用できる利用者保護の体制を整備します!!
	災害対策計画	市民と社協が共に備える 災害への対策	①災害からいち早く復旧できる組織づくりを進めます!! ②災害発生時の緊急対策を整備します!! ③市民生活の復興を支援するしくみを強化します!!

令和5年度事業報告

<地域福祉活動計画関連>

①身近な地域での支え合い活動を推進します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> 企業ボランティアの協力を得ながら、寿会と連携した「スマホ喫茶」を開催し、スマートフォンの使い方を学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が苦手とするスマートフォンの使い方について、社協、寿会、企業ボランティアが協力し、高齢者に役立つ事業企画ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ヨシツヤ清洲店から場所の提供を受け、「みんなのげんき塾」を月に2回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の社会参加、ボランティアのきっかけづくり、相続、介護などの相談会、新しいサロン活動の提案などを実施することができた。また、民間店舗で事業展開できたため、社協そのものの活動が広くPRできた。
<ul style="list-style-type: none"> ブロック社協の未実施の地区に対し、協議体という話し合いの場を3回設け、地域福祉活動の推進方策について、検討を重ねた。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加メンバーも定着し、回数を重ねるごとに話の内容がまとまってきた。
<ul style="list-style-type: none"> 企業の社会貢献の取組みとして「スマホ喫茶」への協力、フードドライブボックスの設置、食品や物品の寄付、「みんなのげんき塾」への講師などを実施していただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 年々企業の地域貢献の取組みが増加してきており、活動の幅が広がってきた。
<ul style="list-style-type: none"> 地域活動のための資器材の整備では、のぼり旗と自転車プレートの配布による啓発活動を継続した。また、プロジェクター、けん玉、モルック、トイドローン、スポーツスタッキング等の新しい備品を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発資材は、福祉活動を実践していることが視覚的にわかるため、市民等にも伝わりやすくなった。また、古くなった備品を買い替え、整備することができた。
<ul style="list-style-type: none"> 災害ボランティアコーディネーター連絡会による出前講座等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練や出前講座等により災害ボランティアコーディネーター連絡会の認知度は高まってきた。

②誰もが活躍できる清須市を目指します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動ボランティアセンターの認知度向上のため、ボランティアフェスタにて、出張ボランティアセンターを開設し、PR活動に努めた。高齢者疑似体験、赤い羽根募金活動、手芸サロン作品販売等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に福祉活動やボランティアの活動を知ってもらういい機会となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・従来の社協だよりやホームページだけではなく、SNS（facebook や LINE）を活用したボランティア情報をタイムリーに提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの募集や食品配布のお知らせなどの急ぎのニーズがある場合に、LINE 等で知らせ、ボランティア活動に参加する機会を提供することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・市民へのアンケートを工夫し、従来の「ニーズ把握型のアンケート」から「地域のお宝アンケート」へ変更した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケートで自分の得意なことを申し出ていただく方が増加し、講師の発掘につながった。「スマホ喫茶」はこのアンケートで講師が見つかり、講座が実現できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブ事業では、市内の金融機関で回収ボックス設置場所が4か所増加し、市民にとって届けることができる場所が増加した。 ・はじめて、関係者によるフードドライブ事業意見交換会を開催し、課題や事業を充実させるための方策について話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブにおける協力事業所登録制度の準備や商工会との連携を進めることができた。 ・食品配布会のあり方、配布会準備ボランティアの確保、食品回収ボランティアの確保に向けて、令和6年度の改善に向けた準備を進めることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンを活用した視覚障害者への情報収集等の支援を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集等の支援を継続して行うことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・新川高校と寿会との交流事業、福祉実践教室、ボランティア等による出前講座、夏休みを利用した子ども福祉体験を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進んだ現在、高校生と地域住民との世代間交流、高齢者からの話は大変貴重で、高校生のいろんな気づきとなった。小中学生にも福祉を感じてもらおう体験を通して地域住民とふれあうなどいずれも貴重な機会となった。

<ul style="list-style-type: none"> ・企業の専門性を生かした社会貢献活動の新たな取り組みとしては、フードドライブへの協力、物品や金銭の寄付をはじめとして、出前講座の講師や社協事業の手伝い等に協力をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを目指すなど企業の社会貢献に関する相談は、着実に増加している。 ・相談から実際の活動（エコキャップ活動）につながった企業もあった。
--	---

③誰もが認め合い、共に生きる力を育てます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・地域参加する男性が増加するように、健康やスポーツの観点から講演会を開催し、啓発に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会当日は、大勢の男性参加者があり、地域活動に参加するきっかけとなった。
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉学習会のプログラムに新たに「成年後見制度」を入れ、メニュー選択の幅が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業の宣伝機会を確保でき、多くの市民に広報することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・児童、生徒、学生等各ステージごとに適切な福祉教育プログラムを整理した。 ・児童生徒の福祉実践教室の講師謝礼についてルールを設け、統一した考え方で謝礼を出すこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの年齢に応じたメニューの提案をすることができた。 ・講師謝礼について、ルールを設けたことで混乱なく処理することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みにこども福祉体験を実施し、生物、福祉、災害等のテーマについて学習する機会を提供できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちに社会福祉に関する理解と関心を高めることができた。また、市民を講師とすることで、特技を生かしたボランティア活動の推進につながった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシツヤ清洲店における「みんなのげんき塾」では、一般向けに出前講座を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物客の目につく場所での講座開催により、一般の方への福祉の啓発活動につながった。

④何でも気軽に相談できる社協を目指します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック社協における福祉学習会、寿会の福祉出前講座、民生委員協議会への参加、みんなのげんき塾、認知症カフェなど様々な場面で職員が出向いて相談窓口のPRに努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症が5類に分類されたことに伴い、地域活動が従来のように実施されたため、相談窓口や職員の顔などを知っていただくことができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・相談スキルの向上のため、人事異動によるOJTの実施、相談支援業務ネットワーク会議（社協内）を開催し、困難事例に対する各部門からの検討等を行った。その他、職制研修、横断研修、全体研修、新人職員研修等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織全体としてのサービスの質の向上を図るための人事異動や研修参加を通して職員のスキルアップにつながった。
<ul style="list-style-type: none"> ・市や関係機関との連携を強化するために、各種連絡会議に参加し、情報の共有、課題の共有に努めた。 ・サポートセンターにおいては、初めて市内の相談支援事業所を集めた意見交換会を開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所を集めた意見交換会を通して、事業所のニーズを把握できた。今後、サポートセンターによる事業所支援をさらに充実させていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・市はもとより、病院、福祉施設、小中学校、養護学校、保健所、警察、弁護士、家庭裁判所などと連携を強化し、普段から顔の見える関係づくりを構築した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる関係機関の会議、研修会等に参加したりすることで、気軽に相談したり、尋ねたりすることが可能となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック社協の福祉学習会、寿会の福祉出前講座、民生委員協議会の会議や研修等に参加し、相談窓口のPR活動に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者には、社協の認知度が高まりつつあり、関係者経由で相談が入るケースも増えてきた。

⑤権利擁護体制を強化し、将来も安心して暮らせるまちをつくります！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見支援センターの受託とともに、弁護士、司法書士、社会福祉士、医師等の専門家を交えて、市役所、日常生活自立支援事業、地域包括支援センター、基幹相談支援センターとの連携を図り、ケース検討ができる環境を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待ケースについては、従来から市と連携して対応している。 ・成年後見については、各専門家の参加により支援の方向性を議論できる環境が整え、後見人の受任調整ができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見支援センターの広報啓発としての出前講座等の回数は、のべ19回を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に広報活動を行うことで、徐々に相談件数が増加してきた。
<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見支援センターの相談対応は、初年度にして116名（のべ662件）の相談に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談に対して、適切に対応できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活自立支援事業では、生活支援員へのケース移行を進めた。また、契約締結審査会提出判定会議により、関係者で利用の適否を検討したうえで、愛知県社協へ申請してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望と担当者の思いだけで利用するのではなく、様々な関係者からの意見も踏まえ、制度の利用が適切か否かを客観的に確認、判断し、申請することができた。

<発展強化計画関連>

①役職員の共通理解の促進と職員育成の強化を進めます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉部会2回、発展強化部会2回、災害対策部会1回を開催し、地域福祉活動の推進方策、人材育成、人材確保、社協事業の要綱、規程の改正などを協議した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従来、部会には、地域福祉係と総務係だけが参加していたが、今年度は基幹相談支援センター、地域包括支援センター、福祉支援課の職員も参加して、役員へ広く事業の状況を説明することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体研修は年1回、横断研修を年4回、係長研修を年3回開催した。その他、新人職員研修、中堅職員研修、管理職研修等を実施した。部署内における研修は、部署でテーマを決めて研修することで研鑽に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体研修では、公益通報者保護法や個人情報保護法を学習し、ガバナンスやコンプライアンスの充実を図ることができた。また、昨年研修したインボイスへの対応は、

	10月から、電子帳簿保存法は1月からスムーズに実施できた。
・組織の活性化のための定期的な人事異動を実施した。また、今年度より市との人事交流を実施した。	・お互いの組織理解や情報の共有など相互にメリットがあった。
・資格取得助成制度の要領を改正し、対象者の要件緩和、該当資格の増加、事後申請など制度を利用しやすくし、1件の実績があった。	・申請実績が1件あったものの、約70名の職員がいる中では、申請者が少ないので、職員への周知やさらに利用しやすい制度への改善が課題となっている。
・今後の職員の雇用管理と減少する福祉人材の確保のため定年延長制度を制定したが、該当者がいないため、利用実績は今のところない。	
・今年度で4年目となる人事評価制度を実施した。	・面談を通して少しずつ社協の方針と職員の希望などのすり合わせができるようになってきた。職員によっては、社協の方針が理解できてからは、動きが格段に改善されたケースもあった。
・ノー残業デイ、有給休暇の取得促進により、仕事と家庭のバランスを意識した働き方を奨励した。また、メンター制度を構築し、新規採用職員の職場への定着を図るための方策を構築した。有給休暇の計画的付与を構築し、有給休暇が取りやすい環境を整備した。	・令和5年度の実績として、平均有給休暇取得日数は11.6日（正規職員）となった。 ・メンター制度では、新人職員が、先輩職員に適切に相談にのってもらうことができた。

②多様な福祉ニーズに対応できるよう社協独自事業を拡充します！！

事業報告	事業成果
・コロナ禍により、生活困難になった世帯に対し、一時的な食糧支援では、生活改善しないことが明らかとなったため、年金支給月ではない奇数月に食品配布会を開催し、生活に困っている方の生活支援をした。	・事業が周知され、利用者は増加傾向にある。ボランティアとして協力してくれる利用者が現れたほか、毎回寄付金を匿名で送ってくださる市民もいた。 ・受付表を工夫し、困りごとを把握することで、適切な相談窓口の紹介等も行うことができた。

<ul style="list-style-type: none"> 市が令和5年度と6年度に地域福祉計画を策定することに合わせて、社協の地域福祉活動計画を一体的に策定するにあたり、今後の福祉事業の計画をつくるという点から、その策定にかかる費用に福祉基金を活用することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> これからの地域福祉の計画を作るための財源として福祉基金を有効に活用できた。
<ul style="list-style-type: none"> 自家用車保険、運転免許有効期間のチェック、アルコール検知機器を用いたチェックを実施し、適切な安全運転管理を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度も、大きな交通事故はなく、安全に業務を遂行できた。

③市民と社協が気軽にやり取りできるしくみをつくりまします！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> 広報紙掲載内容検討会議を継続し、事務局と編集委員会の役割分担、社協だより、Facebook、LINEを目的に応じて活用した。また、計画的な編集・発行体制を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> 急ぎのニーズに対してLINEを活用してすぐに情報提供することができた。
<ul style="list-style-type: none"> 広告料収入は、ホームページと社協だよりで引き続き行い、財源の確保に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 社協だより発行費の一部に充てることができた。
<ul style="list-style-type: none"> 福祉学習会等への職員の派遣と必要な福祉情報の発信とニーズキャッチを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ニーズに対して適切に対応できた。
<ul style="list-style-type: none"> 相談対応時は、できるだけアウトリーチ(訪問)による対応を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談を待つのではなく、訪問して相談にのることができた。

④継続した事業運営のための財源の確保に努めます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> 補助事業、委託事業においては、適正人員を検討し、業務が持続可能となる補助金、委託金を確保するための折衝を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 予算折衝に当たっては、事業に伴いかかる費用の必要性を説明し、必要な補助金、委託金を確保することができた。

<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見支援センター事業を受託し、6月からセンターをスタートした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい事業を受託したことで、安定した財源を確保できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人の公益的な責務を果たすべくフードドライブ事業を継続した。また、職員への意識啓発のため、自宅の食品を持ち寄ることを呼び掛けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「フードドライブチャレンジ」と銘打って、職員一人一人の意識を高めることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・従来どおり、社協だより、ホームページ、趣意書等により会費等の趣旨や用途を広報した。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金、寄付物品等を社協だよりや SNS (facebook) で PR した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付金の状況を PR することで、新たな寄付へつなげることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・企業にホームページのバナー広告や社協だよりの広告掲載依頼を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広告収入を確保することができた。

⑤市民の信頼と安心を得られる確かな法人基盤を構築します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・収益と人員のバランスを取り、収入の範囲内で支出を行うよう職員の配置を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス区分ごとでの増減はあるものの、法人全体ではプラス決算とすることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・財務状況の公表は継続して取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協だよりやホームページ等で決算を報告することができた。しかし、紙面が限られているためどうしても文字や数字が多く、見にくくなるので、今後も改善の必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修は公益通報者保護法、個人情報保護法を学んだ。介護保険集団指導、安全運転講習等への参加を通して職員へ教育した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社としての自浄作用を強化するために公益通報者保護規程を制定し、取り組みをスタートさせることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・社協の社会貢献活動の取組みとしてフードドライブ事業から食品配布会を実施し、さらに相談援助事業につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコンビニエンスストア、金融機関、高校、短大とも連携して社会貢献活動を効果的に実施することができた。

⑥安心してサービス利用できる利用者保護の体制を整備します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇やサービス提供等利用者が気持ちよくサービスを受けられるよう部署ごとに研修を実施した。 ・ 新人職員は、県社協新人職員研修を受講し接遇等の基本を学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部署において接遇の悪さを原因とする苦情等はなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦情解決制度への対応は、令和5年度の苦情状況をまとめて第三者委員へ報告し、アドバイスをいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦情は、組織的な対応が必要であることから、各部署で発生した苦情もすべて総務係で情報管理し、必要に応じて顧問弁護士に相談しながら対応できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務で個人情報を持ち出す際のチェックリストを作成し、書類や名簿等の紛失がないように点検することで事故の発生を防止した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度に個人情報漏洩事故はなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模修繕工事にあたり、利用できない部屋の代替を用意したり、安全配慮したりして利用者に不便がないように努めた。 ・ 工事完了後の会議室や相談室の運用ルールを検討した。 ・ 会議室に必要なテーブルや椅子を購入した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事期間中事故等は発生しなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリ・ハットや介護事故記録は総務係で情報管理し、リスクの高い場面や発生頻度が多い事例について職員へ周知し、注意喚起した。 ・ 安全運転講習や自家用車の保険チェック、免許証チェックにより事故防止に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリ・ハットの意識が高まり、軽微なものも含めて、記録に残すことが意識づけされてきた。しかし、令和5年度は労災が2件発生したため、改めて事故防止の注意喚起を行っていく。

<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回、火災避難訓練等を行い、定期的な安全管理の確認を行った。 ・大規模修繕工事中における避難経路の確認や救助袋の使用法の訓練を行った。 ・毎日の日常点検、産業医の巡視により特に問題は確認されなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に火災等の事故はなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの感染防止と健康増進の対策は、衛生委員会で、感染症対策委員会を兼ねて開催し、感染症防止のための取組みについて協議した。 ・衛生委員会で話し合われた健康増進の情報について、随時職員へ情報提供した。 ・職員の休憩場所がなかったため、新しく休憩室を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩や自転車通勤の職員が増えるなど職員の健康意識が高まってきた。 ・休憩室を作ったことで、休憩時間の居場所が確保できるようになった。

<災害対策計画関連>

①災害からいち早く復旧できる組織づくりを進めます！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・事業継続計画（BCP）は、毎年更新し、人事異動にも対応できるようにした。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・東尾張ブロック局地災害時救援活動相互訓練等を実施した。（尾張旭市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携を強化するための取組みを継続することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安否確認をはじめとする各部署で役割分担すべき共通事項はBCP内においてすでに整理されている。 	

②災害発生時の緊急対策を整備します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等の際、BCPを確認して役割を確認するように促すなど職員がBCPを意識して動くように努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からBCPを確認して、避難訓練の役割や緊急連絡先を確認する等、BCPへの意識が高まってきた。

<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策だけではなく、感染症対策も盛り込んだ改訂版を作成している。 	
--	--

③市民生活の復興を支援するしくみを強化します！！

事業報告	事業成果
<ul style="list-style-type: none"> ・市担当者、災害ボランティアコーディネーター連絡会の連携について、防災訓練打合せ、研修等のお知らせ、講演会への案内、防災会議を通して意見交換できている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアコーディネーター養成講座は開催できた。講座は14名参加があり、内12名が災害ボランティアコーディネーターに登録した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年一定数の講座受講者がコーディネーター登録を進め、災害時への備えを着実に進めることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ブロック社協において災害時の避難訓練などが実施できた。 ・災害ボランティアコーディネーター連絡会による災害出前講座を清洲小学校で実施した。 	